

2024(令和6)年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
阿山地域部会 議事録

■開催日時 2024(令和6)年8月27日(火)
午後2時00分～午後3時30分

■開催場所 阿山支所 会議室1・2

■出席者 (敬称略)

【部会員】

山本 利幸 河合地域住民自治協議会 副会長(代理出席)
中井 利晴 韮田自治協議会 会長
田中 康裕 玉滝地域まちづくり協議会 会長
藤森 宣博 丸柱地域まちづくり協議会 会長
中西 正敏 伊賀市社会福祉協議会地域支援課地域福祉コーディネーター
松山 安利 伊賀市商工会阿山支部 支部長

【事務局】

交通戦略課 井上課長、中川係長、西條
阿山支所 吉田主査

■傍聴人：0人

■会議概要

1. 開会

2. 部会長、副部会長の互選について(互選結果・敬称略)

部会長 藤森 宣博(丸柱地域まちづくり協議会会長)
副部会長 辻森 宗基(河合地域住民自治協議会会長)

3. 協議事項

・今後の地域公共交通について

事務局から資料1に基づき、阿山管内の公共交通について説明。

【質疑応答】

部会員	これから高齢者が今以上に増えて、車の免許証も返納する人が増えてくるようにも思う。法定協では、そのあたりの見通しな
-----	--

	どは、どのように考えているのか。
事務局	法定協では、色々な交通事業者が集まり、上野の中心市街地と、それぞれの支所管内をうまく結ぶことを目指している。その目指すべきところに向かって、実際の施策を我々行政がおこなわないといけないのだが、このような状況に甘んじてしまっている。基本的に公共交通は、競合しないようにしないといけない。すでにあるバス路線と重複する路線を走ることが、なかなか難しい。 3年ほど前にアンケートを社協さんが実施していただいた際、アピタへ行きたいという声も多かった。また阿山支所で止まっている三重交通のバスを、もう少し伸ばせば利用が増えないのか、と考えたりもする。 いずれにしても、改善をしていかねばならない。変えるなら成功したい。そのために地域の意見を十分に把握する必要がある。時刻を変更するにも、おそらく一長一短がある。

部会員	上野市街地のにんまるの状況はどのようなものか
事務局	利用者が増え続けている。
部会員	理由は？
事務局	明確な理由は、分析できていないのだが、地道なPRが功を奏してきたか。バスの存在が浸透してきたことが考えられる。市街地の主な目的地には必ず着く。 また4月から車内アナウンスを、小学生に担当してもらっている。

部会員	阿山地域四自治協の事業で、地方公共交通の権威である名古屋大学教授の加藤博和先生に1月11日にお越しいただく。鳥取や菰野町、四日市など、現地で公共交通に乗って、いろいろな改革をされている方。我々だけでわからないまま、残してほしいという気持ちが先行するだけで議論するより、基本的なことをわかって、議論した方がよいと思う。ぜひ皆様で参加いただきたい。
事務局	地域で意見交換して、公共交通に対して意識付けしたうえで、先生の話聞いてもいいと思う。加藤先生は、国のルールを定める委員も務めている。メディアにもよく出られている。

部会員	公共交通の問題は難しくわかりにくい問題かと思う。正直自分はまだ自家用車も運転でき、ピンとこないというのが正直だと
-----	--

	ころ。なくなったらなくなつたで、その時考えよう、と思うとこともある。しかし、子どもたちのことを考えると、いろいろ工夫して出かけようとする。どのようにしたらスタバへ行けるのか、など。その子たちにとっては、バスや電車がなくなったら、自分たちで行けなくなってしまう。しかし、一年に数回、子どもが乗ったところで、何かが変わるのか、と考えると。実際なかなか自分が利用するのは難しい。
事務局	玉瀧地域では互助活動の「おたすけたまちゃん」として地域の方が取り組んでいただいている。地域が中心となつていただくと、継続しやすいが、担い手等の不安もあると思う。 公共交通は、残してほしいという意見もあると思う。一方で、やはり、自家用車を利用できる人間が、わざわざ公共交通を利用するのかと考えると、違うと思う。将来使うかもしれない人ではなく、現在必要としている人のニーズを、適切に把握し、適宜ルートやダイヤを5年スパンくらいの短期間で見直していく必要があると考える。
部会員	無人化はできないのか。
事務局	視察にも行ったが、時速20キロくらいで走行する。安全性を考慮すると、道端の草木にも反応して停まる可能性もある。

部会員	以前担当していた、友生地区と諏訪地区は、どちらも同じタイミングでバスが無くなるかもしれないという問題が出てきた。諏訪地区は、自分たちでハイエースを借りてきて運転してみようとか、既存のバスに乗ってみようとか、いろいろ自分たちでバスを残そうとしていて、友生地区は、逆になくなってもかまわないという考えが多かった。地域によっても、公共交通に対する熱量が全く違う。これからの公共交通は、地域が望む運行ダイヤやルートを計画時点から行政と考えて作り上げるという考えが必要。また、どうしても高齢者をメインとして考えられることが多いが、子どもの外出機会を確保すること、他の地域からの来訪者の移動確保も大切。すべての世代の人が楽しく移動できるということが、本来の公共交通の目的だと思う。
部会員	地域の人が、他の人を乗せることは可能なのか。
部会員	無償であれば可能。
事務局	運行することに対する対価をもらうのであれば、運輸局に届け出て許可をもらう必要がある。 互助活動の多くは運行に対する対価ではなく、時間に対する対価というかたち。

部会員	利用している人が実際に行く場所を調べてみては。
事務局	地域の方を募って、実際に乗っていただくのも方法かもしれない。フリー乗降の制度も、あまり知られていない気がする。
部会員	もっとも考えないといけないのは、80歳代の独り住まいの高齢者の方。
部会員	地域の方が行う互助活動も大切だが、そもそも、大きな軸である公共交通がしっかりしていないと。
事務局	いろいろまた、地域ごとのお話を聞かせていただくためにまわりたい。秋の落ち着いたころにでも。ご協力をお願いします。

4. その他 意見なし

(終了)